

『看護部紹介』

〈総合患者支援センター〉

入院前から、安全に安心して治療が受けられるよう入院支援センターでオリエンテーションを行ない、不安なく入院生活が送れるように支援を行います。また、訪問看護師やケアマネージャーとも地域連携を行なっています。



〈救命救急センター〉

24時間体制で救急患者を受け入れています。重症心疾患、重症呼吸不全、脳血管障害、多発外傷、消化器疾患、中毒患者など幅広い看護ケアが求められます。専門・認定看護師から高度な知識を修得できる教育環境も整っています。



〈外来〉

外来患者数は1日約500名。28診療科をブロックに分け、医師・看護師・医療事務が連携して患者さんに対応しています。患者さん誰に対しても、気遣いと思いやりの会話を心掛けている地域に密着した笑顔あふれる外来です。



〈特定集中治療室 (ICU)〉

生命の危機的状態にある患者に対し24時間体制で高度な医療・看護を行なうICU。専門的かつ高度な医療に対応できる能力が身に付けられるようにチームで支え合い、患者の早期回復に向けて多職種と協働してケアを行っています。



〈手術室〉

救命救急センター指定病院の使命として、24時間体制で緊急手術に対応しています。執刀医・麻酔医・臨床工学技士・看護師・看護助手など様々な職種が協働して迅速・安全・安心な手術を提供。病棟や外来との連携も不可欠です。



〈小児科病棟（2階病棟）〉

生後数か月から15歳までを対象とした様々な疾患に対するケアを実践しています。発達段階に合わせて処置や検査の説明を行い、不安や苦痛を最小限に留められるよう医師・看護師・子ども療法支援士が協力しています。



〈新生児集中治療室（NICU）・ 新生児治療回復室（GCU）〉

三浦半島地域唯一の新生児の専門医療を担っています。呼吸や循環機能管理など厳しい状況下にある患児のストレスを最小限に抑え、細心の注意を払ってケアに取り組んでいます。スタッフがひとつになり、患児の成長を願っています。



〈外科病棟（3階病棟）〉

主に消化器外科や脳神経外科、泌尿器科の手術前後の急性期看護に携わっています。また、悪性疾患の化学療法や放射線療法、脳神経外科の血管内治療前後の看護など患者さんの身体面のケアを行い異常の早期発見に努めながら、精神面のサポートも行っています。スタッフはみんな明るく、元気な病棟です。



〈産婦人科・外科病棟（4階病棟）〉

産婦人科・外科・泌尿器科など女性患者の入院している病棟です。新生児から高齢患者まで、幅広い看護を提供しています。フリースタイル分娩を取り入れ、産婦の望む出産に対応しています。助産師・看護師ともに明るい病棟です。



〈循環器病棟（6階病棟）〉

心疾患の内科的治療、心臓血管外科手術前後のケアを行っています。患者さんの状態を観察し、迅速に対応できるように勉強会を通じて知識を修得しています。社会復帰に向けた指導も、多職種とチームワークよく取り組んでいます。



〈整形外科病棟（5階病棟）〉

大腿骨頸部骨折や脊椎疾患で手術目的の患者さんが大半を占めます。手術後の痛みのコントロール、患者さんの社会復帰を目指した早期のリハビリテーションを実施。医師・看護師・理学療法士との連携もよく、明るい病棟です。



〈内科病棟（7階病棟）〉

呼吸器疾患や消化器疾患を対象とした検査入院、化学療法が多く、呼吸器ケア・緩和ケアにも力を入れています。患者さんやご家族の思いを看護に反映するため「患者家族参画型看護計画」を実施。思いやりが自慢の病棟です。



〈回復期リハビリテーション病棟 (南3・南4階病棟)〉

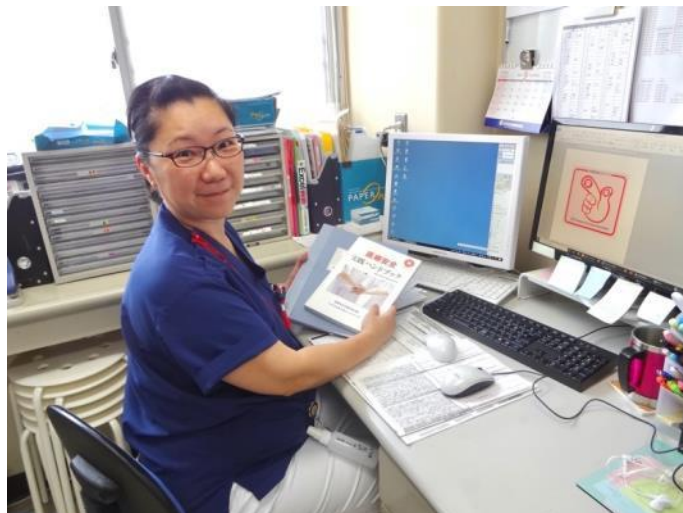
医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語療法士
および医療相談員が連携を図り、家庭復帰や社会復帰
を目指しています。患者さんもその家族も安心して退
院できるよう、スタッフが熱い思いでサポートしてい
ます。



〈師長会〉



〈医療安全室〉



リスクマネージャー 中村 須美子

医療安全室では、病院内で働く全職員からのヒヤリハ
ット報告、気づき報告を受け、安全のための対策立案、
マニュアルの改訂など実施しています。安全のための
院内巡視も定期的に行っています。



〈主任会〉



< 専門看護師 >



急性・重症患者看護専門看護師 伊藤 清恵

突然の怪我や重症な病は、めまぐるしく症状が変化します。その中で怪我や病気と向き合うことは、患者さん・ご家族にとって過酷な治療環境の中で生活し、いのちや生き方を考え、決断をしなければなりません。そのような患者さん・ご家族に合わせて6つの役割を担いながら看護の力を最大限に発揮し、回復へのお手伝いをさせていただきます。これらの活動に加え、現在は院内で立ち上げた「フットケアチーム」のメンバーとして、下肢救済ケアの活動にも携わっています。このような活動より、よい結果が生まれる現場づくりに地域社会に貢献したいと考えています。

< 特定ケア看護師 >



畑 貴美子 (NDC) 清雲 聡子 (NDC) 鶴井 亮扶 (NDC)
角 和恵 (創傷管理) 田中 優子 (創傷管理)

2015年10月より保健師助産師看護師法の一部改正により特定行為研修制度が始まりました。特定行為研修

制度は、チーム医療を推進し看護師の役割を更に発揮するための制度です。私たち特定ケア看護師は、特定行為研修を修了し、院内外で活動をしています。

私たちは、患者さんがより良く早期に必要な処置が受けられるように、診療の補助として21区分38行為の医行為を手順書により実施しています。また特定行為を行うだけでなく、患者さんが抱える医学的問題を訴えや身体診察、採血、超音波検査などをもとにアセスメントし、医師に報告、医学的介入とともに実施することも行っています。

そして何よりも大切にしていることは、医学的知識をもとに「看護師」として患者、家族の方々と医療スタッフを繋ぎ、支える活動を行っています。

< 認定看護師 >



集中ケア認定看護師 畑 貴美子 高田 真希

私達は普段ICUに入室している患者さんご家族のケアを行っています。ケアのなかで大切にしていることは、患者さんの「その人らしさ」を忘れず、少しでも非日常の世界の中に日常生活を取り入れられるようにすること、そして早期回復につなげることです。ご家族にも少しでも希望に添える看護を提供できるよう日々努力をしています。

また一般病棟にも訪問し、ICU退室後患者へ退室後訪問、人工呼吸器を装着患者のリハビリテーション、入浴介助、散歩など、重症患者のQOLの向上につながるケアを行っています。

院内での医療チームの活動としてもRST（呼吸ケアサポートチーム）として院内の呼吸ケアの向上、RRT（院内急変サポートチーム）として急変を防ぎ、患者の重

篤化を防ぐ活動を、医師、理学療法士、臨床工学技士ら医療スタッフと共にしています。そして院内教育として集中治療領域におけるシミュレーション研修などを開催しています。より魅力的、効果的、効率的な研修を開催し、院内看護師の皆様が自ら成長できる環境づくりに努めています。

小児救急看護認定看護師 椎名 一美

小児科病棟を中心に、新生児集中治療室・小児科外来、救急外来・救命救急センターで活動をしています。こどもの安全と家族の安心を支え、初期対応から入院中の子どもたちのQOLの向上に病棟をはじめとした看護スタッフとともに、小児科医・こども療養支援士・保育士・MSWらと協働して子どもが少しでも早く元気になるための手助けと家族支援を中心に活動をしています。感染症などで入院する子どもたちが点滴などの処置や入院生活を少しでも不安なく過ごせるように、また手術や心臓カテーテル検査などの検査を受ける子どもたちが安心して臨めるように取り組んでいます。

感染管理認定看護師 松村 恵美

院内の感染制御チームの一員として、患者さんを含む来院者や医療従事者など全ての人々への感染予防に努めています。具体的には、院内ラウンドや感染症発生時の対応、臨床でのモデル的役割を担うリンクスタッフの育成や全職員を対象とした研修会の開催などを行っています。感染対策は全ての職員の協力が必要です。全ての医療スタッフと連携し、職種や部署を超えた感染管理活動を実践し、安全で安心できる病院作りのために活動しています。

皮膚・排泄ケア認定看護師

角 和恵 田中 優子 小泉 愛衣

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、創傷・ストーマ・失禁の患者を対象に専門的なケアを提供する看護師です。ストーマに関しては手術前からサポートを行い、導入やサイトマーキングを行っています。排泄経路が変わる患者さんの精神面のケアから、手術後の身体的なケア、家族を含めた指導なども行い全人的な関わりを目指しています。週に1回ストーマ外来を開設し、退院後の患者さんのフォローを行っています。また、褥瘡ハイリスク加算に貢献しており、週に1回、多職種での褥瘡回診を行っています。失禁に対する予防的スキ

ンケア・皮膚トラブルに対するケア介入も行っています。定期的に勉強会を実施し、スタッフ全員が予防的なケアの提供ができ、みなさまの健康な皮膚を保てることを目標としています。

緩和ケア認定看護師 清雲 聡子

緩和ケアチーム 白井 麻奈美

がん患者様とその傍らで支えるご家族を中心に、ケアを行っています。身体のだらみと心ののだらみが最小限となり、その人が望む暮らしを継続できるよう努めています。

緩和ケア支援チーム（医師3名、緩和薬物療法認定薬剤師、緩和ケア認定看護師、管理栄養士相談員）と主治医・病棟スタッフが協働してケアに努めています。「あなたの希望を支えます」をモットーに、いつでもどこでも緩和ケアが提供される病院を目指しています。

認知症看護認定看護師 小河 浄女

認知症の患者さんが安心して入院生活を送ることが出来るよう病棟スタッフと情報共有し、「その人らしさ」を考えながらケアを行っています。行動心理症状に関連した症状の悪化や、せん妄を生じることがあるため睡眠状況なども観察し心身の機能が低下しないよう日常生活のリズムを整えることを大切にしています。認知症ケアサポートチームによる活動では多職種（医師・社会福祉士・作業療法士・看護師）と連携を図りながらできるだけ速やかに住み慣れた元の生活に戻れるよう支援しています。

